

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 白子中学校区合同学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年11月4日(火) 15:30~17:00

2 場 所 白子中学校 被服室

3 全体会 「子ども食堂の取組について」

講師：夢ある稻生まちづくり協議会 会長 鈴木 誠治 様

夢協子ども食堂稻乃屋 会長 岩本 維久子 様

- 事業目的は3点あり、稻生地区全体が協働して子どもたちを通じた地域のコミュニケーションの促進、若い住民の地域活動への参画意識の向上、世代を超えたコミュニケーションの向上である。
- 2021年7月に設立し、稻生地区東南部に位置する本照寺園林館を借用し運営を開始し、開催頻度は毎月1回で食事だけでなく、子どもたちに昔ながらの遊戯や読み聞かせも提供している。
- 参加人数は70名から100名程度でそれを支えるスタッフのボランティアには地域住民だけでなく学生のボランティアもいる。前日から食事の仕込みや準備をしており、現在はそれを行うことのできる十分なマンパワーがある。
- 11月には収穫祭があり、稻生小学校の5年生が育てたお米を使用したおにぎりと豚汁を1000食作ってふるまっている。昨年度も好評であった。
- 食材（お米、野菜）の大部分を地域からの無償提供品で賄っており、食事後に子どもたちが遊び、大人と交流する等のコミュニケーションの場となっている。本の読み聞かせは本照寺本堂で2カ月に1回開催し、夏にはかき氷を提供した。
- 設立目的の地域コミュニケーションの場づくりとして3世代の交流だけでなく、親同士の交流の場としても充実してきている。また、中高生ボランティアに活躍してもらえる場にもなっている。
- 本照寺に近い地区からの参加者がほとんどで地域全体に広がっていないこと、世代間交流のイベント、企画ができなかつたことは課題である。
- 今後は本照寺以外の稻生地区全域で順次開催していくために検討を行っている。また、全世代交流のできるイベントや企画を考えていきたい。地域の人々のコミュニケーションを活性化するには、どのような形、どのようなイベントにしていくべきなのかを常に考えて取り組んでいく。

4 交流会

- スタッフの人数や食材がこれだけ集まる地域の力がすごい。
- 食堂にはその開催日に行けばいいのか。 →事前予約制になっている。
- 実際の活動を継続していると大変であるが人数のスケールメリットを活かして地

域のつながり、結束も強い。課題克服への気持ちも考えているのもすごい。

- ・少しアナログへ戻すという発想に感動した。今現在の子どもたちの様子や保護者の変化を感じる。これまでも和気あいあいと持続可能な取組を考えてきたが、今の子どもの様子を踏まえたものも考えていきたい。避難訓練時等に子ども食堂をしたので参考になった。

## 5 教育委員会事務局教育支援課より

- ・地域で人々がどのようにコミュニケーションをとっていいか交流ができたのは有意義なものだった。新型コロナウィルス感染症拡大以来、各地域での行事の規模縮小や行事自体がなくなっている中で、人と人とのコミュニケーションを大切に取り組めていることが素晴らしい。それも5年も継続でき、ブラッシュアップしているところも凄い。地域の子どもと大人が交流できる場として活用できているだけでなく、中学生の活動の場にもなっている。これからもさらに輪が広がっていくことを期待している。